

## 第5回友の会ウィーク 中央図書館で開催

多彩なイベントを11月2日(土)から17日(日)まで準備中

区立中央図書館が開館して、今年で4周年。平均の来館者数は毎日3千名以上を数える図書館になりました。そして友の会は発足5年目の活動に入りました。これを祝い、さらに発展していくことを願い、そのために寄与することをめざして、今年も葛飾図書館友の会は下記の内容で「第5回友の会ウィーク」を開催します。

日程：11月2日(土)から11月17日(日)

会場：中央図書館内(会議室1・2、おはなしのへや、展示コーナーなど)

内容：講演会、読書会、映画会、演劇、CD・DVDコンサート、おはなし会、紙芝居、ワークショップ、資料展示など



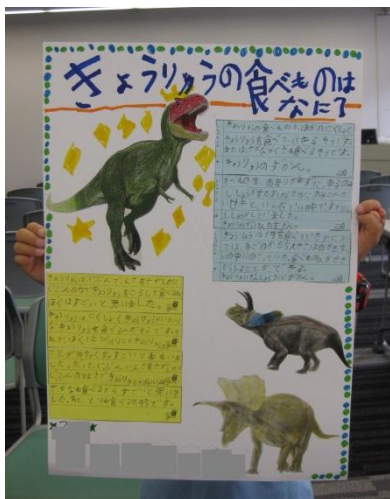
昨年度のポスター

この「友の会ウィーク」は図書館主催のイベント開催期間(10月17日から10月27日まで)に引き続き行います。昨年度は12のイベントが開催され、総参加者は約350名、そして「友の会」の活動内容をPRする展示も行われました。参加する各団体及び友の会の活動をアピールする大変貴重な機会でもあり、現在、友の会会長を委員長に、役員全員を委員とする実行委員会のもと、開催に向けて準備を進めています。「友の会ウィーク」の詳しい内容などは区内図書館でのポスターやチラシ、「友の会」のホームページなどで9月下旬頃から順次発表しますので、ご期待ください。

## 夏休み恒例 第4回「自由研究おうえんたい」 児童・YA サービス応援委員会協力 小学生対象・夏休みの宿題をサポート

今年で4回目の「自由研究おうえんたい」が児童・YA サービス応援委員会、中央図書館児童室、葛飾区立学校図書館支援指導員の会有志による共催で行われました。

今回は7月29日(月)、30日(火)に開催されました。今年も宿題の自由研究のサポートと並行して、百科事典プラディアを使った「ポプラディアクイズ—児童文学編—」、「図書館を使った調べる学習コンクール」第12回および第16回受賞作品(複製)の展示を行いました。



参加者は2日で、のべ小学生35人おとな20人。今年は、図書館児童室作成の「調べ学習応援シート」を参考に、自由研究のテーマを決めました。こどもたちは児童室に本を探しに行き、調べて分かった事をカードに書き、感想カードにも書いて、画用紙に貼り付け、イラストをつけて完成。その日のうちに立派な「調べ学習ポスター」を仕上げた小学生が5~6人。テーマは、「きょうりゅうの食べもの」「A・B・Cの本」「元素」「スカイツリー」「きんぎょ」「塩の結晶」など、それぞれの年齢に応じた興味深い内容でした。「あさがおの観察」のまとめ方が分かったと喜んで帰られた1年生の保護者。ポプラディアクイズを黙々とこなして、「調べる⇒分かる」楽しさを味わっていた小学生。それぞれに何か収穫のあった時間を過ごしてもらえたようです。



## 《クラシック音楽は心の花束》

### 「来て、観て、聴いて、良かった」と好評

#### 20回を迎えた友の会主催の『CD・DVDコンサート』

<大音響で聴く>をテーマに、委員会ではさまざまな演出努力を2年半かさねてきました。演出努力というのは、常設会場である中央図書館会議室1の音響設備では、なかなかデリケートな再生ができないので、なんとか解説や映像で補わざるを得ません。そしてひたすら大音響によるアンサンブルの効果を狙うわけです。その効果によって生ずる心地よいひとときを、図書館コンサートの来訪者に聴いていただいています。

#### ◆アンケートの要望にこたえて

おもに委員の音楽的素養?と制作意欲に頼ったテーマ別プログラムを組み、なんとかしのいできましたが、現在は1年以上蓄積された来場者アンケートの要望を集約し、テーマに反映させることに重点を置いています。“作曲家、演奏者、思い出の曲、ジャンル別” など…。

近ごろはNHKをはじめDVDの普及によって映像つきの演奏風景に親しむクラシックファンが増えています。確かに演奏者やオーケストラのすがたが見えるコンサートはナレーションやタイトルバックもあり、理解を深めることが容易です。ではこのコンサートの難しさと苦労の一端をご紹介します。

#### ◆「コンサート付きヨーロッパ旅行」のアイデア

第6回に試みた「ヨーロッパ名曲旅行」はさいわいにも発見した図書館所蔵の上映許可付きDVDを利用し、スーツケース無用・サーチャージ込み無料の旅気分で、イタリア、スペイン、オーストリアの名曲と名所を巡る企画を実施し、好評を博しました。この企画は第11回コンサートでも訪問地、曲目を変えて行いました。この成功をもとに、音楽を聴きながら大作曲家の足跡をCDにDVD画像を組み合わせてたどる企画は、ほとんどのコンサートのなかで行っています。

#### ◆DVDオペラ映画「トスカ」で多数来場

図書館所蔵の音楽DVDは著作権の問題もさることながら、古いものが多く、音質や傷みの問題で、残念ながら豊富といえません。わずかな資料を委員会で試写試聴・検討しながら実現しています。第14回に開催した「トスカ」は以前開催した「オルフェウス」にくらべてわかりやすく、初めて満員に近い来場者を集めることができました。このような企画を今後も増やしていきます。

#### ◆選択のコンセプトは?

できるだけ有名な曲、作曲家、演奏者、指揮者、オーケストラを選んで取り上げています。特にクラシック音楽を生み出してきたバッハ、モーツァルト、ベートーヴェンなどの大作曲家は今後もシリーズで追いかけていきたいと思えます。しかし図書館所蔵の音楽DVDは上映自由でも古くて鑑賞に堪えないものが多く、新規購入も少ないのですが、図書館に資料収集の希望を出していきます。

**第14回 図書館所蔵による CD/DVDコンサート**

**ブッチーニ・オペラ 不朽の名作を  
図書館で鑑賞しませんか?**

フランス/ドイツ/イギリス/イタリア合作の音楽映画DVDを上映!



1800年のローマ。独裁政権によって苦しめられてきた人々の戦いの時代を背景に、歌手トスカと恋仲である共和派の画家マリオが、脱獄した政治犯アンジェロッティをかくまったために巻き込まれる悲劇の舞台を完全映画化。「妙なる調和」「歌に生き、愛に生き」「星は光ぬ」などの名アリアとともに激しく美しく描いたオペラ映画の傑作。

# トスカ

作曲 ジャコモ・ブッチーニ

<p>[スタッフ]</p> <p>指揮 アントニオ・パツパーノ</p> <p>演奏 コヴェント・ガーデン ロイヤル・オペラ・ハウス 管弦楽団および合唱団 ティフィン少年合唱団</p> <p>監督 ブノワ・ジャコ</p> <p>撮影 ロマン・ウインディング</p> <p>美術 シルヴァン・ショヴェロ</p> <p>装置 アトリエ・メカネ(ローマ)</p>	<p>[キャスト]</p> <p>トスカ…アンジェラ・ゲオルギュー(ソプラノ)</p> <p>マリオ…ロベルト・アラニャ(テノール)</p> <p>スカルピア…ルッジェーロ・ライモンディ(バス/バリトン)</p> <p>アンジェロッティ…マウリツィオ</p>
---	---

**全3幕**



主催 葛飾図書館友の会 CD・DVDコンサート委員会

**2/17** (日) 14:00開演 中央図書館会議室1(特設会場)

●入場無料/先着100名

# ネットで情報配信中

## 葛飾図書館友の会 ホームページ

葛飾図書館友の会のホームページ (かつしか とものかい で検索できます)

PC用：<http://katsutomo.jimdo.com/>

友の会からのお知らせ

葛飾図書館友の会とは

会員になるには

たんしん(各委員会活動予定)

友の会通信 バックナンバー

ナイトシアター・コンサートの予定

CD・DVDコンサートプログラム

キーワード読書会

活動点描

お問い合わせ

携帯サイト入り口

「友の会ウィーク」

広報委員会では、年4回の『友の会通信』、毎月発行の『たんしん』とともに、ホームページでも情報発信をしています。トップページには最新のイベント情報、発行物、各種募集を掲載。「会員になるには」のページからは入会届をダウンロードもできます。「キーワード読書会」には過去の読書会ブックリストや、図書館検索サイト[カーリル]のリンクもあります。HPにアクセスして左のメニューから各ページをぜひ、ご覧ください。

### ◆ホームページ作成への道のり◆

ホームページ作成には全くの素人でしたので、試行錯誤しながらのスタートでした。時間はかけてもお金はかけないを旨とし、さまざまな無料ホームページ作成ツールにチャレンジ、特別な技能がなくても、簡単に作れるツールを見つけました。試行版をへて、なんとかタイムリーに情報を会員の皆様へお伝えできる現在の形式となりました。このホームページは葛飾区の図書館の公式ページにリンクしています。そのため会員以外の多くの方や他区の方もこの友の会のホームページを見てくださり、コンサート、映画会などへの参加のきっかけになっているようです。

まだまだ改善の余地はありますが、情報発信、過去の記録、入会届の提供などに活用していきます。  
(広報委員会HP担当)

## 図書館内でのボランティア活動を中央図書館が企画

「図書館内でのボランティア活動をしたい」という会員のみなさまに現在、中央図書館はその希望に沿う企画を検討中です。主な活動内容は新宿図書センターでの配架と書架整理、中央図書館のボランティアルームでのICタグがし及びリサイクルシールの貼付などの処理作業などが検討されています。具体的な作業内容や日時(曜日・時間など)の詳細が決定次第、会員の皆様には「たんしん」やメールなどでお知らせする予定です。

### 友の会活動 今後のラインナップ (いずれも中央図書館・無料)

- **キーワード読書会** (午後6時半から 会議室2) 9月19日(木) キーワードは「おとな」
  - **ナイトシアター委員会** (いずれも午後6時から 会議室1)
    - 9月14日(土) 「アフリカの女王」
    - 10月12日(土) 「めぐみ」
    - 11月9日(土) 「殯(もがり)の森」\*
  - **児童・YAサービス応援委員会** (いずれも午後3時半から おはなしのへや) 毎月第一土曜日 「おはなし会」
  - **CD・DVDコンサート委員会** (いずれも午後2時から 会議室1)
    - 9月29日(日) 「フジコ・ヘミング特集」
    - 11月17日(日) 「CMに使われたクラシックの名曲特集」\*
- \*は友の会ウィーク参加イベント

## 心にのこる私の一冊 ⑩ 『図書館ねこデューイ 町を幸せにしたトラネコの物語』

ヴィッキー・マイロン著 羽田詩津子訳 (早川書房版)

香川 明子

私が『図書館ねこデューイ』を読もうと思ったのは、4年前にあるテレビ番組でその事について紹介されたのがきっかけだった。また、図書館と猫がテーマだったので、テレビで取り上げた実話について詳しく知りたいと思っているうちに、いつも行っている書店でその本を見つけて購入し、一通り最後まで読み終えても何度か読み返したくなる本だった。

1988年冬の寒い月曜日の朝の出来事だった。アメリカのアイオワ州スペンサーの公共図書館では、毎週月曜日担当者がブックポストの処理をしていた。その後ジーンからブックポストの中から何か音がすると報告があり、たくさんの返却された本の中に、子猫が入っていた。その猫は、ヴィッキーが保護し、図書館理事会の了承を経てスペンサー公共図書館の一員として町の人々から愛される様になった。その猫は、デューイ・リード・モア・ブックスと名付けられた。デューイの名前の由来は、町の人々がもっと本を読んで知識を得ようということだった。後にデューイは、その町を幸せにする存在として日本のテレビ番組でも紹介された。

一番印象に残っている話は、ヴィッキーが図書館学の修士号を取得する為に、閉館後図書館に残って仕事をしながら気分転換にデューイとかくれんぼする場面だった。他にも、話の途中で、デューイの好きなもの・嫌いなもの、1日の日課、仕事について書いてあったのが面白くて印象に残った。

内科医によると、スペンサー公共図書館はアレルギーを防ぐための設計だった。その為この図書館ではその猫を保護し亡くなるまで飼う事が出来た。アメリカでは図書館で猫を飼うことは珍しくないが、日本の図書館では衛生面の事等を考えると猫を飼うのは考えられないと思う。

インターネットのポータルサイトで検索してみると、『図書館ねこデューイ』の映画化が決まった様だが、まだアメリカでは上映されていない様である。もし公開したら、是非見に行きたいと思っている。表紙のデューイは、たくさん積んである本の上に乗っかって輪ゴムを手に持っているのが可愛いなと思った。『図書館ねこデューイ』は、私にとって心に残る1冊であり、愛読書である。



(かがわ めいこ 企画展示委員会副委員長)

## 「葛飾図書館友の会」で一緒に活動しませんか！

『友の会』は多くの会員によって活動しています。図書館を利用されている方、活動趣旨に賛同される方々、是非ご入会いただいて、あなたの図書館に関わるいろいろなアイデアを少しずつ実現してみませんか？

原則として第3土曜日の午後1時から4時まで中央図書館内で、また友の会開催イベント時でも直接の入会受付を行っていますので、是非ご利用ください。年会費は一般会員1,000円、賛助会員は1口2,000円です。上記の方法が利用できない場合、入会希望者は中央図書館に入会届をご提出の上、年会費を下記の口座に納入してください。図書館での年会費の直接納入はできません。「通信欄」に一般あるいは賛助会員かを明記の上、25年度年会費とご記入下さい。また1口500円の寄付も大歓迎です。振替手数料は銀行窓口では120円、ATMからでは80円です。恐れ入りますが、ご負担をお願いいたします。入会届は友の会HPからもダウンロードできます。

ゆうちょ銀行	口座番号	00100-7-392065
	口座名称	葛飾図書館友の会

●問い合わせ先 中央図書館友の会担当者(打越さん、吉村さん、清水さん、白井さん) Tel. 03-3607-9201

## 色えんぴつ

むかし、著述家のKご夫妻宅におよばれた事があった。さすがに本とは縁の深いお二人、蔵書の量は小型図書館並みで、専門書やご趣味の本が玄関から廊下・階段にまであふれ壮観だった。うわさでは車庫も書架に占領され、車は外へ出ているという▼当然のごとく棚へ二重三重に収まった本たち。聞けば、これだけあってもどこに何があるかは承知とのこと。けれど急場に取り出せず、「これこれの本の記述について教えてほしい」との電話は知人一同が経験済みなのだった▼電話一本で調べ物が間に合うネットワークを持つているなら同じ本を持っている必要はないのでは？ 理屈ではそうなのだけど、蔵書家には愛書家の部分も捨てがたくあるのではないかと思う(少なくとも私の場合は)▼読むことも久しくない本の山だが、ふとした折に開き古い書物特有の匂いをかぐと、初めて読んだ頃の自分、学校図書館の棚や旧友の顔まで思い出されて、手放すことはやはり難しい▼のような訳で形としての本にもこだわる私にデジタル図書は向きそうもない。が、にしてもかさ張る本！ 処分しなければ増やすスペースもないのに。ちなみに数年後再訪したK家の客間、かの日には美しく整理されていた部屋の床が本の重みですり鉢状に落ちていた。

(林広報委員)